



## できごと

秋の子ども図書研究室講座を、土曜日コース(9月8日・10月6日)と水曜日コース(9月5日・10月3日)で実施しました。講師に富士宮子どもの本研究会の代表を務める松村雅子氏をお迎えし、「おはなし会のプログラムづくり」と題して、おはなし会のプログラム作成に関する講演を行いました。

松村雅子氏は、長年子どもの本と読書活動に携わっており、また市民読書推進サポーターとして、富士宮市で読書活動に関する企画運営を行っています。

講演ではプログラムを作る課題もあり、受講者は講義や講師による課題プログラムの講評に聴き入っていました。(裏面にて、概要を紹介します。)

## 子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

「一番新しいクリスマスとお正月の本」

(2006年以降に出版された本)

「さるかに合戦」の本

新着図書も常時展示中です。

## イベント情報

### 冬の子ども図書研究室講座

ミニブックトークからはじめよう! - 15分間で本を紹介する -

講師: 土曜コース・吉住幸子氏

(御前崎市教育委員会教育総務課教育総務係長)

水曜コース・川村美穂氏

(御前崎市立図書館主任)

日時: 土曜コース

12/8(土)10:00~12:00、1/19(土)10:00~12:00

水曜コース

12/5(水)10:00~12:00、1/16(水)10:00~12:00

会場: 静岡県立中央図書館 中集会室

定員: 各コース20名(中学生を除いた15歳以上の方)

申込方法: チラシの申込票・電話・Eメールにて受付

電話: 054-262-1246

Eメール: [mailmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp](mailto:mailmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp)

## 新着資料から

### 絵本 『黒グルミのからのなかに』



ミュリエル・マンゴー / 文  
カルメン・セゴヴィア / 絵  
とき ありえ / 訳  
西村書店  
2007年7月

ポールは、母さんを連れにきた死神から、その鎌を奪い取り、死神を黒グルミの殻に押し込め、海へ投げ捨てた。母さんは元気になったが、同時に、卵も魚も豚も野菜も、全てのものが死ななくなってしまった。ポールは魚たちの力を借りて、黒グルミを探し出し、死神を解き放つ。

スコットランド民話をもとにして、死と切り離すことのできない生を描く。死神と対峙した時の勇気や決意が表れたポールの表情とともに、死神の鎌の大きさやグルミの小ささが印象的な絵本。【小学校中学年から】 (鈴木由)

### 物語 『みてるよみてる』



マンロー・リーフ / ぶんとえ  
わたなべ しげお / やく  
ブッキング  
2007年7月

ふくれてばかりいる「ふくれんぼ」や、物を壊す「こわしや」に「うそつき」、こんなこまった子どもたちは、「ものみどり」がちゃんと見ているよ、というお話。いたずら書きのような挿絵はユーモラスで、お説教臭さを和らげている。渡辺茂男氏の訳も絵にぴったりはまって楽しい。作者はもと教員なので、モデルは教室で出会った子どもたちかもしれない。大人のための寓話としても読める、魅力ある一冊。

1995年学習研究社発行「みてるよみてる」を底本に復刊された。【小学校低学年から】(牧田)

## 子ども図書研究室講座 報告

**初**日は絵本の選び方や持ち方などの基本から、よい絵本の特徴、さらにはおはなし会の意義など、その背景も含めた総合的な講座となりました。



**子**どもには質をキャッチできるアンテナがあり、一見地味な本でも楽しむことができます。しかし、既読の本やアニメキャラ等、既に知っているものを好み、また質の良し悪しに関係なく、なんでも取り込んでしまうという問題点もあります。それゆえ、本選びは大人の仕事であり、責任を持って選ぶ必要があります。

また、選び方の目安として、コアスタンダード core、ステッピングストーン standard、stepping stoneという3つの区分を挙げました。coreは、出版から25年以上経た今も出版され続けている本・世代を超えて読まれている本など、プログラムの核となる本が該当します。standardは、絵や文がしっかりした、まず失敗しないと考えられる本が該当し、対象の年齢にあわせて選ぶことが求められます。stepping stoneには、読み手が子どもに聞かせたい本など、実験的な本が該当します。これらを意識したう



えで、自分の中でcoreとなる本をもち、1冊はcoreに属する本を含めてプログラムを作ることが求められます。

自分の好きな本だけを与えるというのは、子ども達に対する冒とくです。おはなし会には仕事やボランティアなど様々な出発点がありますが、いずれの立場にせよ、子どもによい本を手渡すという、本来の目的を忘れてはいけません。

**絵**本選びのポイントについては、具体例とともに挙げられました。

例えば『かいじゅうたちのいるところ』（モー

リス・センダック / さく 富山房)では、さまざまな特徴を持った怪獣を大勢描くことで、どんな子どもが想像した怪獣であっても、物語に登場させることに成功しています。このように、自分の想像したものが物語にでてくると、子どもは物語の世界に入りこみやすくなります。

**特**に2～7歳ぐらいまでの子どもは、物語と現実の世界の境目があいまいで、両方の世界を行き来する存在です。読み聞かせ等で物語の世界を楽しんだあと、「おしまい」で現実の世界に戻る、ということを日常の中で繰り返すことで、物語の世界と、現実の世界とを区別できるようになります。この経験を通じ、物語の世界で意識的に遊べるようになります。

対してテレビやゲームは引きつける力が強く、また終わりもはっきりしません。いわば、現実とは違う物語に引き込まれてしまうようなものです。こういった、無意識に物語の世界へ入り込んでしまうことに歯止めをかける、という点でも、読み聞かせは重要な役割を持っています。

他に昔話や手遊びの特徴、対象の違いに応じたプログラムなど、お話は多岐にわたりました。

**2** 日目は受講者が作成したプログラムに対し、講師による講評が行われました。

そして最後は、仲間内で絵本について対話すると、新たに気づくこともあるため、話し合える仲間を作ることを勧める形でまとめました。

### 所蔵資料から

**研究書** 『えほんのせかい こどものせかい』



松岡 享子 / 著

日本エディタースクール出版部

1987年9月

著者の家庭文庫(現・東京子ども図書館)での豊富な経験をもとに、子どもや絵本について、子どもへの本の届け方についてまとめている。子どもの読書活動に関わる人にとっての必読書。

(渡辺勝)